

1

胎・幼・幼稚・子ども
教師セミナー

未来の見張り人

出エジプト 2:1~10

さて、レビの家のひとりの人がレビ人の娘をめとった。女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかごを手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子の中にいれ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。その子の姉が、その子がどうなるかを知らうとして、遠く離れて立っていたとき、パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。彼女の侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしめをやって、それを取って来させた。それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をあわれに思い、「これはきっとヘブル人の子どもです」と言った。そのとき、その子の姉がパロの娘に言った。「あなたに代わって、その子に乳を飲ませるため、私が行って、ヘブル女のうばを呼んでまいりましょうか。」パロの娘が「そうしておくれ」と言ったので、おとめは行って、その子の母を呼んで来た。パロの娘は彼女に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませてください。私があなたの賞金を払いましょう。」それで、その女はその子を引き取って、乳を飲ませた。その子が大きくなったとき、女はその子をパロの娘のもとに連れて行った。その子は王女の息子になった。彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです」と言ったからである。

1. モーセはいちばん重要な時代に生まれたレムナントでした

1) 当時のイスラエル民族は、エジプトの奴隷となって迫害されていました。
(出 1:8~16)

2) エジプトのパロ王はイスラエル民族に男の子が生まれたら殺せと命令しました。(出 1:17~22)

3) イスラエル民族の赤ん坊が殺される時、モーセが生まれました
(出 2:1~10)

2. モーセは王宮で育ちました

1) モーセはエジプトの法律を学びました

2) モーセは兵法*を学びました

3) モーセはエジプトの最高の学問を学びました

* 広い意味で、すべての人的・物的条件を含めて展開される戦争を行う方法

3. 神様がモーセを通してイスラエル民族を救い出されました

1) 神様がモーセに子羊の血を塗る犠牲のいけにえを命令されました
(出 3:1~20)

2) 神様はモーセを通してエジプトに臨んだ10のわざわいを10の奇跡と奥義に変えられました(出 5:1~12:46)

3) 神様がモーセを通してイスラエル民族が紅海を渡るようにされました
(出 14:1~13)

2

胎・幼・幼稚・子ども
教師セミナー

みらい れいてきいしゃ
未来の霊的医者

I サムエル 7:1~15

キルヤテ・エアリムの人々は来て、主の箱を運び上げ、それを丘の上のアビナダブの家に運び、彼の子エルアザルを聖別して、主の箱を守らせた。その箱がキルヤテ・エアリムにとどまった日から長い年月がたって、二十年になった。イスラエルの全家は主を慕い求めていた。そのころ、サムエルはイスラエルの全家に次のように言った。「もし、あなたがたが心を尽くして主に帰り、あなたがたの間から外国の神々やアシュタロテを取り除き、心を主に向け、主にのみ仕えるなら、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出されます。」そこでイスラエル人は、バアルやアシュタロテを取り除き、主にのみ仕えた。それで、サムエルは言った。「イスラエル人をみな、ミツバに集めなさい。私はあなたがたのために主に祈りましょう。」彼らはミツバに集まり、水を汲んで主の前に注ぎ、その日は断食した。そうして、その所で言った。「私たちは主に對して罪を犯しました。」こうしてサムエルはミツバでイスラエル人をさばいた。イスラエル人がミツバに集まったことをペリシテ人が聞いたとき、ペリシテ人の領主たちはイスラエルに攻め上った。イスラエル人はこれを聞いて、ペリシテ人を恐れた。そこでイスラエル人はサムエルに言った。「私たちの神、主に叫ぶのをやめないでください。私たちをペリシテ人の手から救ってくださいるように。」サムエルは乳離れしていない子羊一頭を取り、焼き尽くす全焼のいけにえとして主にささげた。サムエルはイスラエルのために主に叫んだ。それで主は彼に答えられた。サムエルが全焼のいけにえをささげていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来たが、主はその日、ペリシテ人の上に、大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエル人に打ち負かされた。イスラエルの人々は、ミツバから出て、ペリシテ人を追い、彼らを打って、ベテ・カルの下にまで行った。そこでサムエルは一つの石を取り、それをミツパとシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで主が私たちを助けてくださった」と言った。こうしてペリシテ人は征服され、二度とイスラエルの領内に、入って来なかった。サムエルの生きている間、主の手がペリシテ人を防いでいた。ペリシテ人がイスラエルから奪った町々は、エクロンからガテまで、イスラエルに戻った。イスラエルはペリシテ人の手から、領土を解放した。そのころ、イスラエル人とエモリ人の間には平和があった。サムエルは、一生の間、イスラエルをさばいた。

1. サムエルは、契約を持った子どもでした
 - 1) 母親のハンナの祈りの答えとしてサムエルが生まれました (I サム 1:1~9)
 - 2) サムエルをナジル人としてささげたハンナは、神様に向かい喜びをもって賛美しました (I サム 2:1~10)
 - 3) 神様のみことばが消えたときに、サムエルは神様の契約の箱がある所で寝ていました (I サム 3:1~3)
2. サムエルは神様の力を体験しました
 - 1) 主がサムエルに臨んで、これから行うことを語られました (I サム 3:4~18)
 - 2) サムエルは成長し、主は彼とともにおられ、彼のことばを一言も地に落とされませんでした (I サム 3:19)
 - 3) 主の預言者として立てられたサムエルに、主がみことばでご自身を現わされました (I サム 3:20~21)
3. サムエルは霊的いやしをしました
 - 1) 神様がサムエルのことばを全地に伝えられました (I サム 4:1)
 - 2) サムエルを通してミツバ運動が起こりました (I サム 7:1~15)
 - 3) サムエルを通してイスラエル民族がいやされ、ペリシテを越えて世界までいやされました。

3

胎・幼・幼稚・子ども
教師セミナー

みらい たいし
未来の大使

I サムエル 17:1～47

サウルはダビデに言った。「あなたは、あのペリシテ人のところへ行って、あれと戦うことはできない。あなたはまだ若いし、あれは若い時から戦士だったのだから。」ダビデはサウルに言った。「しもべは、父のために羊を飼っています。獅子や、熊が来て、群れの羊を取って行くと、私はそのあとを追って出て、それを殺し、その口から羊を救い出します。それが私に襲いかかるときは、そのひげをつかんで打ち殺しています。このしもべは、獅子でも、熊でも打ち殺しました。あの割礼を受けていないペリシテ人も、これらの獣の一派のようになるでしょう。生ける神の陣をなぶったのですから。」ついで、ダビデは言った。「獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してください。」サウルはダビデに言った。「行きなさい。主があなたとともにおられるように。」サウルはダビデに自分のよろいかぶとを着させた。頭には青銅のかぶとをかぶらせ、身にはよろいを着かせた。ダビデは、そのよろいの上に、サウルの剣を帯び、思い切って歩いてみた。慣れていたからである。それから、ダビデはサウルに言った。「こんなものを着けては、歩くこともできません。慣れていないからです。」ダビデはそれを脱ぎ、自分の杖を手に取り、川から五つのなめらかな石を選んできて、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にして、あのペリシテ人に近づいた。そのペリシテ人も盾持ちを先に立て、ダビデのほうにじりじりと進んで来た。ペリシテ人はあたりを見おろして、ダビデに目を留めたとき、彼をさげすんだ。ダビデが若くて、紅顔の美少年だったからである。ペリシテ人はダビデに言った。「おれは犬なのか。杖を持って向かって来るが。」ペリシテ人は自分の神々によってダビデをのろった。ペリシテ人はダビデに言った。「さあ、来い。おまえの肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。きょう、主はおまえを私の手に渡される。私はおまえを打って、おまえの頭を胴体から離し、きょう、ペリシテ人の陣営のしかばねを、空の鳥、地の獣に与える。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るであろう。この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは主の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。」(33～47)

1. 幼い時期からダビデは、片手に信仰、もう片手に実力を育てて成長しました(詩 78:70～72)
2. ダビデは青少年の時期にゴリヤテとの戦いで勝利して、主の御名を全世界に知らせました(Iサム 17:1～47)
3. ダビデは青年の時期に、殺しにくるサウル王から逃げ回っていましたが、いつも主をほめたたえていました(詩 23:1～6)
4. ダビデは王の時期に、神殿を建てるすべての準備を終えました(I歴 29:10～14)
5. ダビデは老年の時期にも、また、もう一度、危機に会いましたが、神様を恨むことはありませんでした(IIサム 15:13～37)

